

令和4年10月27日
県民文化スポーツ部文化振興課
TEL 076-225-1371 (内 3852)
担当：竹中
石川県立能楽堂
TEL 076-264-2598

石川県立能楽堂開館五十周年記念式典の開催について

石川県立能楽堂が開館五十周年を迎えるにあたり、これまで県立能楽堂の振興・発展に貢献した団体に対して特別功労表彰を、能楽堂事業への協力等により本県能楽文化の振興に寄与した個人に対して感謝状の贈呈を行うこととし、下記の通り式典を開催いたしますので、お知らせいたします。

1. 日 時 令和4年10月29日(土) 13:00～14:00

2. 場 所 石川県立能楽堂

3. 次 第

(1) 記念式典

①開会

②特別功労表彰(1団体)

③知事感謝状贈呈(9者)

※特別功労表彰及び知事感謝状の受賞者は別紙のとおり

④知事挨拶

⑤祝辞

⑥受賞者代表挨拶

⑦閉会

(2) 祝賀能

「猩々(しょうじょう)」

※式典に引き続き、15:30より記念能を開催
(詳細は別添チラシの通り)

石川県立能楽堂開館五十周年記念 特別功労表彰及び知事感謝状贈呈者

1. 特別功労表彰（1団体）

多年にわたり、本県能楽文化の振興に尽力し、県立能楽堂の振興・発展に特に尽力した団体を表彰

- ・（公社）金沢能楽会（理事長：岡 おか 能久 よしひさ（榊能作代表取締役会長））
→明治34年（1901）に設立されてから百年以上の長きにわたり、藩政期以来の伝統を持つ加賀宝生を受け継ぎ、その継承保存と普及振興に努めてきた。県立能楽堂においても毎月の定例能や慈善能等の公演を行うほか、県が実施する「観能の夕べ」等の事業にも中心となって出演協力を頂いており、その功績は大である。

2. 知事感謝状贈呈（9者）

多年にわたり県立能楽堂の事業等に、多大な貢献を行い、本県能楽文化の振興に寄与した者に知事感謝状を贈呈

- ・住駒 すみこま 幸英 ゆきひで（幸流小鼓方。（公社）金沢能楽会初代理事長として会の発展等に貢献）
- ・藪 やぶ 俊彦 としひこ（宝生流シテ方。（公社）金沢能楽会元常務理事として「観能の夕べ」実施等に尽力）
- ・能村 のむら 祐丞 ゆうじょう（和泉流狂言方。自主事業「子供狂言教室」講師）
- ・高橋 たかはし 右任 ゆたか（宝生流シテ方。自主事業「親子謡教室」「子供仕舞教室」講師）
- ・佐野 さの 由於 よしお（宝生流シテ方。（公社）金沢能楽会副理事長として「観能の夕べ」実施等に尽力）
- ・島村 しまむら 明宏 あきひろ（宝生流シテ方、（公社）金沢能楽会専務理事。自主事業「親子謡教室」講師）
- ・田屋 たや 邦夫 くにお（宝生流シテ方。自主事業「謡曲講座」講師）
- ・松本 まつもと 博 ひろし（宝生流シテ方。自主事業「謡曲講座」講師）
- ・西村 にしむら 聡 さとし（公立小松大学教授。「観能の夕べ」あらすじ執筆や解説を担当）

石川県立能楽堂

Ishikawa Prefectural Noh Theater 50th Anniversary Noh

五十周年記念能

2022

10/29(土)

15:30開演 (15:00開場)

石川県立能楽堂

tel.076-264-2598

金沢市石引4丁目18-3



能

狂言

能

鞍馬天狗

別習

宝生和英

朝比奈

野村万之丞

羽衣

パンシキ

佐野由於



《 入場料 》 全席自由 **3,000円**

《 チケットの
お求め 》 石川県立能楽堂/076-264-2598
石川県立音楽堂チケットボックス/076-232-8632
香林坊大和プレイガイド/076-220-1332
金沢能楽美術館/076-220-2790

※石川県立能楽堂以外でのチケット販売は公演日の3日前までとなります。
※高校生以下無料。ただし、入場券が必要となります。入場券は石川県立能楽堂
でお求めください。

主催：いしかわの伝統文化活性化実行委員会

! ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来場の皆様にはマスク
の着用等ご協力をお願いする場合がございます。詳しくは石川県立
能楽堂ホームページにてご確認ください。

<https://noh-theater.jp/>

石川県立
能楽堂の
ご紹介

幕藩体制の崩壊によって一時衰退した石川県の能楽は、加賀宝生中興の祖・佐野吉之助によって復興されました。県立能楽堂の能舞台は、二代目吉之助が昭和7年に金沢市広坂通りに金沢能楽堂の名称で建てた時の本舞台です。西本願寺の北舞台(国宝)を模した舞台は、入母屋造りの破風のついた檜皮葺屋根(総檜造り)で、長い歲月を経て、何とも言えない落ち着いた色艶と風格を呈しています。

これを石川県が譲り受け、昭和47年現在地に移築。石川県立能楽文化会館として開館しました(昭和61年に石川県立能楽堂と改称)。開館して今年で50周年の節目を迎えました。



羽衣

〈能〉
はごろも

天人 佐野 由於

漁夫 平木 豊男

パンシキ

後見 高橋 憲正
藪 克徳

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 任駒 幸英
大鼓 麦谷 清一郎
江野 泉

地謡 寺田 茂
船本 嘉人
酒井 章
山崎 健
佐野 弘宣
大坪喜美雄
渡邊 茂人
金森 良充

朝比奈

〈狂言〉
あさひな

朝比奈 野村 万之丞

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 住駒 俊介

間魔 能村 晶人

太鼓 麦谷 暁夫
笛 室石 和夫

地謡 清水 宗治
荒井 亮吉
能村 祐丞
炭 哲男
若生 敏郎
山田 讓二

休憩

鞍馬天狗

〈能〉

くらまてんぐ

後大天狗
前山伏

宝生 和英

東谷の僧 殿田 謙吉

従僧 苗加登久治
徒僧 渡貫 多聞

オモ間 能村 祐丞
アド間 中尾 史生

後見 佐野 玄宜
金森 良充

松本 博

大鼓 飯嶋六之佐
小鼓 任駒 俊介
太鼓 麦谷 暁夫
室石 和夫

花見 木谷 咲月
花見 藪 有里紗
花見 瀧川 真理
花見 木谷 心晴
牛若 藪 俊太郎
天狗 島村 明宏
天狗 高橋 右任
天狗 藪 俊彦
天狗 佐野 弘宣
天狗 渡邊 茂人
天狗 廣島 克栄
天狗 木谷 哲也
天狗 渡邊 茂人

地謡 米島 和秋
水口 純治
谷 清士
田屋 邦夫
高橋 憲正
大坪喜美雄
渡邊 荀之助
川瀬 隆士

羽衣

〈能〉
はごろも

パンシキ

のどかな春の朝、駿河の国三保の松原に漁夫白竜とその仲間が上ると、不思議な気配を感じます。ふと見ると近くの松に美しい衣が掛けてあります。白竜が衣を手にしたところへ女が現れて、「それは天人の羽衣であるから元に戻されよ」と懇願します。白竜は天女の悲しみをみかねて、天人の舞楽を奏することを条件に羽衣を返します。人間界と違つて天に偽りはありません。約束どおり天女は羽衣を着て霓裳羽衣の曲を舞い奏でます。宝を降らし国土を祝福した天女は、十五夜の月が照らすなか富士の高嶺を経て昇天を果たします。「盤渉」の小書が付くと、序ノ舞が盤渉調になって型も変わり、結末はシテが橋掛りではなはだ舞い込み、ワキ留めになるなど、常の演出と異なります。

朝比奈

〈狂言〉
あさひな

最近人間が賢くなり、地獄は甚だしい、飢饉とか。閻魔大王自ら六道の辻に出て罪人を探します。そこへ通りかかったのが武勇で知られる朝比奈三郎(和田義盛の三男)です。閻魔の責めにはびくともしません。責めくたびれた閻魔は和田合戦の語りを所望します。朝比奈は七つ道具を見せた後、鎌倉の大門を押し破り、力自慢の五十嵐小文次にはこうしてやったと、閻魔を投げ飛ばします。あげくは閻魔に七つ道具を持たせて、堂々とお浄土入りです。

鞍馬天狗

〈能〉

くらまてんぐ

別習

鞍馬の奥僧正が谷に住む山伏(大天狗)は鞍馬寺の僧の花見から離れて花見をするつもりですが、僧の一行は部外者の同席を嫌い引き上げます。一人残った稚児の遮那王(後の源義経)が声を掛けてくれます。天狗は遮那王の身の上を知って、慰みに花の名所を連れ巡り、兵法の大事を授ける約束をします。後日、月影暗い僧正が谷に、遮那王が難刀を持ち、大天狗は羽団扇を携えて、諸国の天狗を伴い登場します。大天狗は師匠を大切にしたい張良の故事を語り、驕れる平家を滅ぼす浮雲飛行の奥義を授けて、梢の間に翔り失せます。「別習」の小書が付くと、常は赤頭の後シテが白頭に白装束、鹿背杖をつけて出ます。赤頭の天狗七人も出て、それぞれが名乗り、遮那王と打合い、先に幕に入ります。